

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	15_3/3_1	市民による薬局・薬剤師等の活用推進（健康サポート薬局の普及）	京都市
アイデア名（注2） (公開)	ICTの活用により市民と薬局・薬剤師と繋がり合う事ができ、身近に相談できる地域社会を実現する新サービス“Pharmatching（ファーマッチング）”		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体（連合）が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名（公開）	Pharmatching（ファーマッチング）しておくれやす☆	
チーム属性（公開）	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム	
メンバー数（公開）	12名	
代表者情報	森田 貴子	
メンバー情報	氏名（公開）	横田 如奈
		相馬 夏月
		岡本 未奈子
		平 憲二
		船戸 一晴
		樋口 敬史
		中嶋 篤志
		塚原 孝
		坂巻 譲理
		牧野 杏里
岩田 竜之介		

（注意書き）※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません）

5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

我々のチームでは「薬局・薬剤師をもっと身近に」をテーマに、“かかりつけ薬局・薬剤師の相談機能”が十分に発揮されていない状況を社会課題として解決に繋がりたいと考えています。特に、高齢者数がピークを迎える 2040 年頃における「健康寿命の進展」の主役である現在壮年期の世代をメインターゲットに想定しています。

国民医療費の伸び・社会保障制度の持続可能性が問題とされる中で、ファーストアクセスの相談窓口として薬局・薬剤師が機能し、未病・予防も含めた生活支援のサポートを行うことが、地域包括ケアにおける連携体制・住民 QOL（＝生活の質 Quality of Life）の向上と健康寿命の延伸に大きく寄与すると考えています。

<解決アイデアの内容>

研究・教育のまち、京都の薬局発！薬学生から提案する薬剤師と繋がるための新サービス“Pharmatching”
ICT を活用した下記サービスをプラットフォームとして提供することで、“かかりつけの薬局・薬剤師を選びやすい”“薬剤師と相談しやすい”社会を実現し、地域住民の安心と健康に寄与することを目指します。

- ① ウイングアーク 1st 社が提供する Motion Board クラウドサービスを活用した位置情報付き Web サービスにより 薬局機能情報を提供、地域における薬局機能・所属薬剤師の取得資格や得意分野などを可視化する
- ② メッセンジャーアプリ（主として LINE）を活用した薬剤師との個別相談対応機能をプラットフォームに組み込む
- ③ ダイエットや身体作り、血圧・血糖値などのコントロール（生活習慣病予防）など中期的な健康サポートに関わる内容について薬剤師から継続的なコーチング的助言を受けることも可能

【Motion Board を活用した Web サービスについて】

- 位置情報をベースに薬局情報を検索・表示
 - ⇒相談予約が可能
 - ⇒健康サポート、麻薬調剤、バリアフリー対応などが分かる！
 - ⇒薬局やドラッグストアごとの薬の在庫状況も分かる！
(基本情報、特記情報以外は京都府が提供する “京都健康医療よろずネット” をリンク先として掲示)
- 相談したい、助言してほしい分野での、得意な薬剤師の検索機能を備える
- 地図上の薬局をクリック、下記中心に薬剤師情報へアクセス
 - ・薬剤師名・性別・イラスト
 - ・かかりつけ登録有無・研修認定有無
 - ・専門資格有無・薬剤師歴（薬局〇〇年、病院〇〇年）
 - ・自己紹介（本人の関わりたい事、得意分野など）



薬局	くえ薬局	
薬剤師名	仲村在和子	
年齢	38	
勤務終了予定	19時まで	
電話番号	075-352-614	
専門資格	XXXXXXXX	
対応症状	腹痛	

【メッセージアプリ（主として LINE）を活用した薬剤師との個別相談対応機能について】

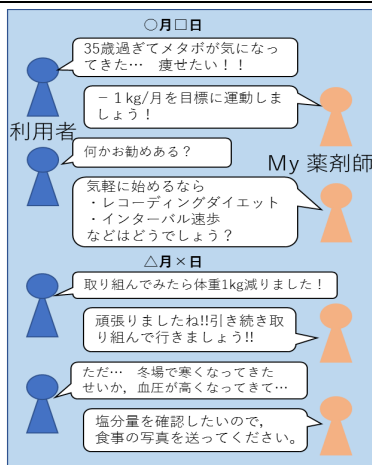
かかりつけ薬剤師として登録いただいた方には、薬剤師とメッセージアプリを利用し繋がる事が出来ます。いつでも気軽に相談でき、健康情報におけるファーストアクセスの場としての薬剤師をより有効に活用いただけます。かかりつけ薬剤師は普段から医療・介護・福祉に関わる地域資源を理解し、必要に応じて情報を繋いだり、連携して動いています。



<ポイント>

- ☑患者、医師を含めた他職種からの☆評価(5段階)を導入→実際に地域で信頼されている薬剤師が解ります
- ☑薬局・薬剤師が地域のハブとなり、必要な際は他の地域資源へ繋ぐことにより問題解決を助けます。
(薬局・薬剤師は普段から医師・看護師・ケアマネージャー等の医療介護関連機関と地域内で連携しています)

※中期的な継続した健康サポートも可能になります ～目指すのは、健康面でのライザップ的コーチング！～



かかりつけ薬剤師として登録された方から、継続した健康サポートを受けられる事が出来ます。「健康的なダイエットを応援してほしい」「血圧管理のアドバイスをしてほしい」「薬や健康のことで継続的な相談に乗ってほしい」という声にお応えします。

普段は LINE での対応がベースとなり、気軽な相談・やり取りが可能。必要に応じて電話相談や薬局での面談も依頼することが出来ます。



【広報ツールとしての SNS 活用】

下記 2 種類の SNS をメインの広報ツールとして、Web サービスへの流入を目指した運用を行います。

- ☑Twitter：オンタイムでの情報に絞ってサービス運用状況の内容を中心に紹介
- ☑Instagram：女性、感度の高いユーザー向けに写真投稿をメインで実施（漢方・美容・食事・ダイエット etc）

【システム運営における概要、保険制度における“かかりつけ薬剤師指導料”との関連について】

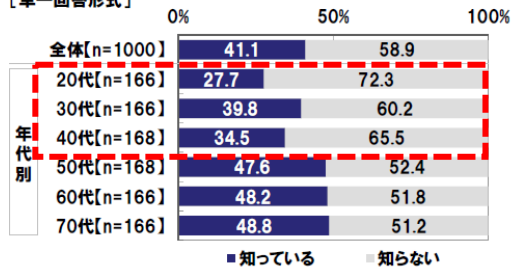
- オープンデータ：薬局機能、登録薬剤師情報（一部）、検索機能 ※薬剤師個別情報公開は任意で設定可
 - 無料登録者への公開機能：登録薬剤師個別情報（登録者のみ公開部分含む）
 - 有料登録者への公開機能：薬局・薬剤師とのマッチング、メッセージ対応（登録薬剤師へ fee 還元）
- ☑2016 年診療報酬改定により、保険制度上でも“かかりつけ薬剤師指導料”等が新設され、算定要件として運用されています。ただし、“かかりつけ薬剤師”の概念自体は以前から提唱・実践されており、決して病院・薬局を利用する人の為だけのものではありません。私たちは地域の皆さまの健康づくりに並走する広義のかかりつけ薬剤師をプラットフォーム運用において“My 薬剤師”と規定し、診療報酬制度上の枠に捕らわれず、かかりつけ薬剤師の概念と活用を広く啓発していくことを目指しています。

(2) アイデアの理由 (公開)

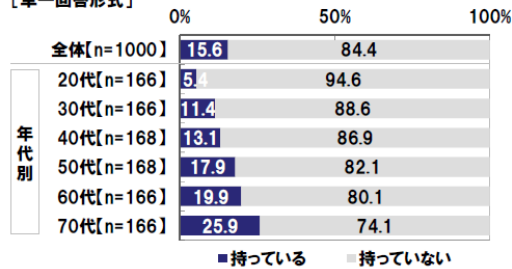
このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

本国におけるかかりつけ薬剤師の認知度はいまだに大変低い状況にあります。論拠として、「健康サポートと薬剤師に関する意識調査」で「知っている」と回答した人は半数以下の 41.1%、「かかりつけ薬剤師を持っているか」という質問に対して「持っている」と答えた人はわずか 15.6%でした。

Q「かかりつけ薬剤師」とはどういう薬剤師が知っていますか。 [単一回答形式]

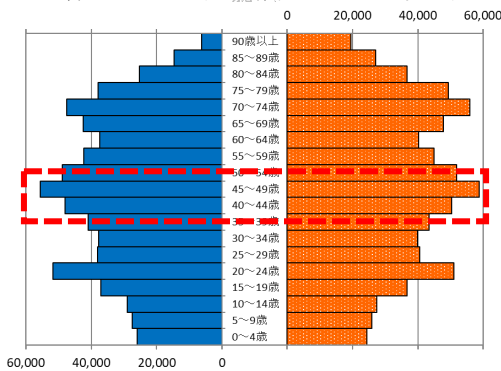


Q「かかりつけ薬剤師」を持っていますか。 [単一回答形式]

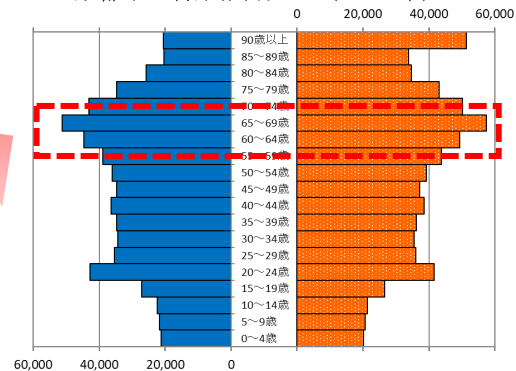


内訳をみると、20～40 歳代において認知度が低い傾向にあります。中でも壮年期の 40 歳代は、2040 年頃に高齢者へと移行する世代であり、将来の「健康寿命の延伸」の主役でもあるため、対策が必要であると考えました。

京都市の人口 (2019年 10月 1日現在)

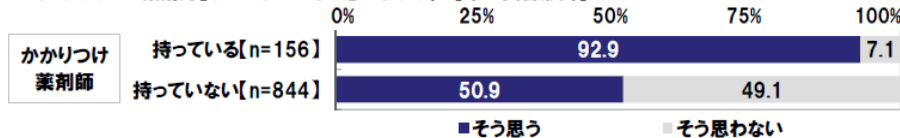


京都市の将来推計人口 (2040年)

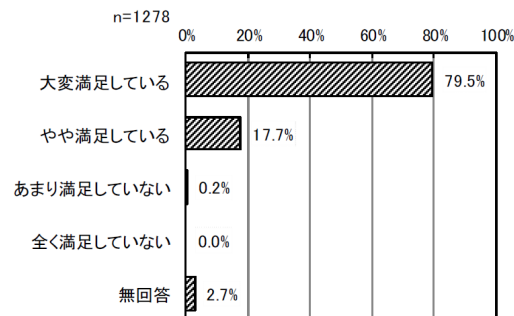


その一方で、かかりつけ薬剤師を持つ患者の満足度をみると、非常に高いことがわかりました。

Q「かかりつけ薬剤師」がいたらいいと思いますか。 [単一回答形式]



自身に対応する決まった薬剤師の業務に対する総合的な満足度

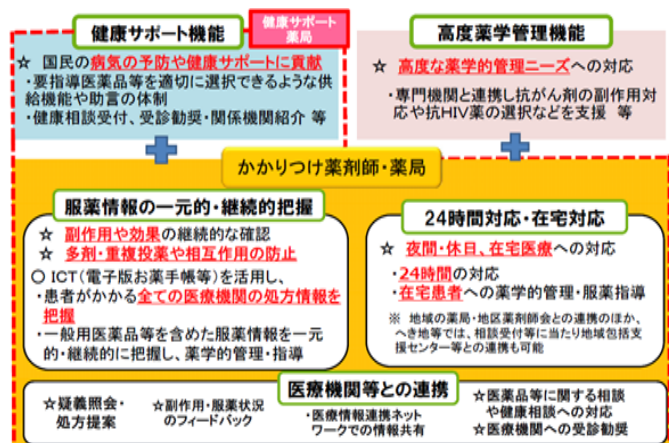


【出典】

(公財) 日本薬剤師会：健康サポートと薬剤師に関する意識調査
厚生労働省：かかりつけ薬剤師・薬局に関する調査報告書
国立社会保障・人口問題研究所：将来推計人口
京都市：国勢調査に基づく推計人口

また、かかりつけ薬剤師に求められる機能は医薬品の管理だけではありません。健康管理などのニーズの声も制度上今後多く求められてくる事が予想されます。

しかしながら、病院にかかることなくかかりつけ薬剤師を持つことは、現制度では、難しい状況にあります。そこで、今回提案している、病院受診の有無に関わらず何でも親身になって相談してくれる薬剤師（＝**広義のかかりつけ薬剤師**）を「**My 薬剤師**」と定義することにしました。



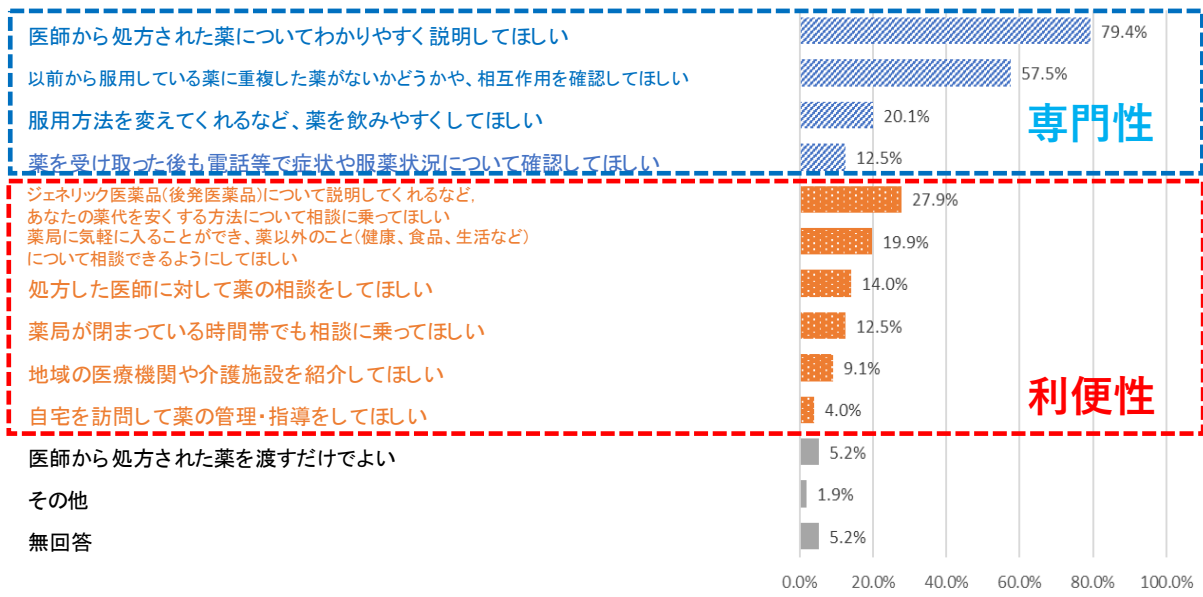
そうすることで、制度に縛られることなく一人一人にあった細やかな対応を行う事を可能にします。

これにより、薬剤師と患者が理想的な関係を築く事ができるのではないかと考えています。

アプリのユーザーと薬剤師及び薬局のマッチング機能により、今後自分がお世話になりたいと思う、最も適切な薬局、薬剤師を選ぶことを可能にします。

薬局や薬剤師の持つ専門知識や健康サポート機能と、利便性への要求にお応えできるアプリツールを目指します。

薬局・薬剤師にして欲しいこと



一方で、利便性が求められることで**薬剤師の負担が増加**することが懸念されますが、有識者の意見より、かかりつけ薬剤師となった方がその患者からの**時間外相談件数が減少**したとの報告もあり、**双方にとって利益**のある環境になると考えます。

さらに、薬も含めた健康管理をすることで、未病、予防、による**健康寿命の延伸**、及び医療機関への**受診率低下**への貢献が考えられます。

以上から、私達は、アプリを含めた患者の包括的サポートを行う **My 薬剤師**を推進します。

【出典】厚生労働省：かかりつけ薬剤師・薬局に関する調査報告書，患者のための薬局ビジョン

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

【アイデアを実現する主体】

- ☑全体設計、環境整備、クラウドファンディング運用、各種広報→現コアメンバー（薬剤師、薬学生、京都市）
 - ※2 次計画段階にて運営体系の見直しを実施予定（①ベンチャー設立②NPO or 社団法人化③計画廃止のいずれか）
- ☑ICT 設計・運用に関する助言、システム開発→ウイングアーク1 s t 株式会社
- ☑サービス運用主体→京都府下の保険薬局で勤務する薬局薬剤師（協力予定：京都府薬剤師会）
- ☑サービス利用とフィードバック→一般市民

京都府薬剤師会の理解と協力が不可欠
「〇〇48募集中！」的なキャッチコピーで

【アイデアの実現にいたるプロセス】

	2019年度	2020年度	2021年度以降
	第1次計画	(第1.5次計画)	第2次計画
環境整備	薬剤師コアメンバー（10名程）の掘起し	薬剤師人材の獲得 当初目標：50名	クラウドファンディング 目標：300万円 →システム開発・運営費用捻出
	薬剤師教育：コミュニケーション能力、市販薬への知識やIT知識の確認と習得		
	SNSを活用した協力薬剤師の募集、利用者・ニーズ掘り起こし		
システム開発	システム全体設計 地図検索試作 メッセージアプリの設計、他機能との連携実装	認証基盤、決済基盤の実装	利用者情報を集約 本稼働システム構築
収益化	製薬会社（OTC薬）からのマネタイズモデル構築		
行政との連携	広報発表 その1 →各メディアへの周知	京都市「まちづくり・お宝バンク」 に本ツールのアイデア登録	広報発表 その2 →各メディアへの周知
	「京都健康医療よろずネット」を運営する京都府との調整（薬局情報が集約されている）		
	ツール機能拡充に必要な行政情報のオープンデータ化検討		
大学機関との連携	学生への呼びかけ協力	京都薬科大学の地域向け 広報誌でCOGの取組紹介	
	市内の薬学部を持つ大学への周知、情報系学部生との連携模索		
	京都薬科大学学生による地域の子供向け実験教室を活用した周知		
	運営主体となるベンチャー人材の選定・発掘		
	アドバイザー（学識経験者や第一線で活躍される方）の発掘		
他団体や各種イベントとの連携	京都府薬剤師会へ薬剤師人材確保に向けた協力要請 京都府薬剤師会主催の講演会等での周知協力依頼		他地域へ水平展開
	薬剤師会主催の講演会等からユーザーの掘り起こし		
	ツール機能拡充に必要な企業（ドラッグストア等）の持つ情報の活用検討		

第1次計画

第1次計画では、アイデア実現に向けた体制作り、基礎開発・調整からクラウドファンディング（CF）準備を実施するまでの期間とし、2020年度下半期までを想定しています。

●登録薬剤師の確保

第1次計画で最も重視している項目です。“My 薬剤師”に相応しいスキル・態度を持った薬剤師10名前後をコアメンバーとし、クラウドファンディングまでに登録薬剤師約50名を確保します。

ICT活用、コミュニケーションスキル、市販薬対応・受診勧奨を含めた臨床判断について必要な際は研修を実施。

☑公募、広報については大学薬学部・京都府薬剤師会のご協力を想定

（※京都府薬剤師会の推薦者が現コアメンバーとして当初から参加し、積極的なアイデア出しと助言を頂いております）

☑専門薬剤師、分野ごとの学識経験者などをアドバイザーとして招集

●行政と連携したオープンデータ活用とシステムへの実装準備

京都府が運営する“京都健康医療よろずネット”には、保険薬局の機能・実績・サービス内容などの多くがオープンデータとして公開されており、年1回を目途に更新も実施されています。

第1次計画では京都府・京都市の担当者を中心にシステム実装を前提としたデータ活用の最適化を行います。

また、その他にもツール活用に有用な薬局・薬剤師に係る行政情報のオープンデータ化を実施します。

The image shows two screenshots of the '京都健康医療よろずネット' (Kyoto Health Medical Yozorusu Net) website. The left screenshot shows the homepage with a search bar, navigation menu, and various service icons. The right screenshot shows a data table with columns for '薬剤師の種別' (Pharmacist Type), '人数' (Number of People), and '薬剤師の種別' (Pharmacist Type). The table lists various pharmacist types and their counts, such as '認定薬剤師' (Certified Pharmacist) with 2 people and '薬剤師' (Pharmacist) with 1 person.

トップ画面から薬局検索ができる他、様々な薬局機能・実績の閲覧・検索が可能 <出典：京都健康医療よろずネット>

第1.5次計画

2020年度下半期を目途にクラウドファンディングを実施。併せて第2次計画実施に向けた運営体制の見直しを行う期間を第1.5次計画とし、2020年度末～2021年度初旬期間で実施します。

●クラウドファンディングの位置づけと資金調達について

サービス提供の登録費用還元などをリターンに設定した購入型クラウドファンディングを想定。併せて賛同企業の確保に向けた広報を実施。資金調達と共に、賛同者の確保・広報効果・将来顧客の創造を目的とした運用を行います。最低限のシステム開発費用、初期運営費用として調達目標金額300万円を想定。

メッセージャー・MAP・各種SNSなどは既存の無料汎用サービスを最大限活用することでコスト管理を行います。

●資金調達・広報結果による運営体制の見直しについて

実現可能性とその為の体制最適化を検討したうえで、2020年度末を目途に運営体制について①ベンチャー設立②NPO or 社団法人化③計画廃止のいずれかをベースに見直し・整備を実施。

また、大学情報科学系の学部生・卒業生から運営コア人材の発掘・選定を行っていきます。

第2次計画

第1次、第1.5次計画の結果を受け、システム完成に向けた最終開発を実施。2021年度内にシステムサービスのローンチ。一般市民へのサービス啓発・利用者情報の集約を行っていきます。

また、提供成果を踏まえて、他自治体への水平展開を進めて参ります。

